

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜(第1・第2ユニット 合同)		
所在地	浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	平成26年8月29日	評価結果市町村受理日	平成26年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2297200350-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成26年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年度から地域交流に力を入れるべく、ホーム周囲の散歩道化とフリーマーケットの開催を軸に地域の方々が気軽に立ち寄ることのできるホームづくりをホームの目標として掲げています。フリーマーケットにおいてはご家族、自治会、近隣施設の方々にもご協力をいただき地域に根付いた活動になるように継続開催を行なっています。散歩道化ではスタッフ、入居者様全員にて協力して作業を行ない楽しみながらの作業を行なっています。社内で行われる事例研究発表会にて、全国上位5ホームに選ばれ、東京にてエリア代表として発表を行うことになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は利用者と家族、職員が力を合わせ「散歩道化」、「フリーマーケット」の二つを軸とした地域交流に取り組んでいます。散歩道化では事業所周囲を芝生や手作りベンチで整備し、地域の人と一緒に飲み茶が飲めるエリアを造成しました。フリーマーケットは病院、スーパーへチラシを配布して、利用者手作り品や持ち寄った洋服、野菜を物々交換する場として定着し、生活の活性化に繋がっています。一方これらの活動の中で折り合いの悪い利用者を敢えて共同作業に誘い、関係改善を試みた事例研究が高い評価を受け、距離を縮める努力が職員のスキルアップと安寧な暮らしへの架け橋となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念は定期的に会議などで繰り返し理解を深めている。「地域の人々とのふれあいを大切にします」という理念に基づき地域の行事への参加、ホーム主催の行事への地域の方々の参加を積極的に推進しています。	法人理念を朝礼で唱和し一つひとつを解説して浸透を図っています。“その人らしさ、”心をこめて、は経験によって積み重ねられますが“地域とのふれあい、”は企画あつての実践となるため本年は特に力を注いでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月開催されるフリーマーケットをホームの基本的行事に位置づけ、社協、病院、スーパーマーケットにチラシを置いていただいたり、地域の催しの際にチラシを配っていただいたりし徐々に地域に浸透している。	野菜の差入れもあり、回覧板やチラシを活用したフリーマーケット開催の認知から声をかけられる機会が増えました。散歩の様子を見て入居を決めたという人もあります。祭り屋台は通りからお囃子披露があり、中学生の職業体験では10名以上が訪れています。	利用者も来所を待ち望んでいることから、子ども達とのふれあいが実現することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人クラブの見学会や中学生の職業体験を受けている。また、包括支援センターより認知症ケアの実践についての講演の依頼を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームにて定期開催しているフリーマーケットにご理解をいただき、チラシを回覧板でまわしていただいたり、人の集まる場所にて紹介をしていただいたりしている。	市介護保険課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員をメンバーに迎え定期開催できています。会議上では地域行事のお知らせがもらえるとともに事業所からの情報発信も行い、また単独外出の見守り方法や対応を実例をあげて紹介しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へホーム開設以来必ずの出席をいただいております。ホームの実情をご報告するとともにご意見をいただいております。	地域包括支援センターからは毎回運営推進会議に出席があり取り組みへの助言がもらえています。市役所からのボランティアの受入れ要請に応え、北遠事業所連絡会にも参加しています。介護相談員の訪問もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一年に一度は必ず身体拘束についての研修を行っており、入居者様が外へ出られる場合も静止は行わず、スタッフ付き添いにて安心をいただける対応を行なっている。	玄関施錠、フィジカルロックもありません。知識を学んでも場面によって言葉や表情での拘束が出てしまう時があるため「本人が行きたいところへ行って納得するまで付き添ってください」と伝え、それが自然にできるケアを目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一年に一度は高齢者虐待についての研修を行っている。事故報告書などを精査しスタッフの対応に問題がないか、今後問題になりそうな事案には対応策を講じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法令順守と共に一年に一度の研修を行いスタッフには理解を行なっている。ご家族やご入居者には入居時に説明を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項に変更を認める場合や退去になる場合などには必ず直接話をする時間をつくりご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人からの年一回のお客様アンケートが実施されており、最新のアンケート結果がいつでも閲覧可能になっている。	運営推進会議が平日であることから同席は難しいため、面会時の対話を重んじて要望を聴いています。アンケートでは居室清掃や温度調整についての苦言もあり、職員会議で改善に向けた協議をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人や管理者への意見は年一回のスタッフアンケートにて実施されている。その結果をもとに改善提案がなされている。	開設当初委員会を発足しましたが担当者任せになる傾向もあったため、係を決めずユニット会議や全体会議で自由討論とした結果活発な意見があがっています。個人面談を実施していますが職場を離れた相談内容もあり厚い信頼が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回の職員アンケートによりスタッフの要望を把握することと、給与改定、正社員登用、昇格などを適宜実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフは法人主催の一か月研修三か月研修、一年研修をうけている。事業所では2年目以降順番に認知症実践者研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者により定期的に近隣の施設の訪問を行っており情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをしっかり行い、生活歴や要望などをご家族に書面にて提出いただき受け入れ態勢を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階ではお聞きすることに徹しご家族の不安を一度すべて出していただけるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	たとえ入居の対象者であっても、ご本人様が快適に生活が出来ないような事項がみられる場合などには他の方法などをご家族と模索するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのホームの意味を大切にし介護を必要とする場合も伴走者の意識を忘れずに出来ないことをお手伝いするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などもご家族にて対応可能な場合はご家族にお願いし、ご家族との時間も多く持つ様にしていく。時には線香をあげにご家族と一時帰宅していただいたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の入居者様がほとんどであるため、地元のスーパーへの買い物、地域の老人会の集会への参加、地域の祭典への参加により、顔見知りの方との交流を継続している。	毎日友人とのランチを楽しむ人や、他施設に入居している夫の元へ面会に通う人、頼りにしているかかりつけ医への受診といったサポートを大切にしています。何十年も会っていない兄との再会を喜んだ例もあり、関係継続のための働きかけを惜しみません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今年度の事例研究において、庭づくり、フリーマーケットの開催を通じて仲の良くない入居者様同志をあえて同じ作業を共同で行うことで関係を改善するという取り組みを行なった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方の様子も定期的に伺いに行き、状態により家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用は勿論のこと、月に一度のユニット会議においても、個々の現状を共有し随時本人の希望を取り入れている。	家族が書き入れるセンター方式シートと共に、初期のプランには必ず「積極的に話しかける、項目を加え『状況確認発見シート』に細やかな情報が積み重ねられています。入居後も変わらず「家がいい」という心の内を汲みながらケアしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にて詳細にセンター方式の記入をしていただき、生活歴についても丁寧に聞き取りを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、ケア日報、介護記録を個々に記入し、朝夕の申し送りを行ない情報の共有を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からはケアマネージャーが面会時に要望を聞き、入居者様からは各担当者が要望の収集を行ない、情報をもとに会議にてユニット全員で話し合い計画作成担当者によりプランの作成を行なっている。	担当職員の意見を基に職員会議では全職員で課題の解決について話し合い、ケアマネージャーがまとめています。援助内容を実施する目安として詳細な記載があり、これに沿ったモニタリングチェックシートで評価も行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に介護計画の実施状況をチェックし、次回の介護計画の作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が行うべき事項においても、状況によりホームにて対応を行ったり、サービスの範囲を限定せず、入居者様のニーズを中心に考え、柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会で主催している生き生きサロンへ参加したり、入居者様のみにてスーパーへ買い物に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の前にご本人の状態、ご家族のご要望を踏まえ、受診先には幅をもたせてある。	8割が協力医に変更していますが、本人や家族が望むかかりつけ医を基本としています。受診の目的と結果の正確な伝達・把握のため職員が同行したり電話連絡することで医療機関とのスムーズな連携が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師の連絡ノートを使用し、ユニットのスタッフ全員が情報共有出来る様にし、看護師の受診助報告書にて、スタッフは対応を確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣のすずかけ病院、日赤病院の医療連携室とは、入院者のいない日頃から交流を持ち、入院者が出た場合の対応などを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針、看取りの指針の両方の説明を書面にて行い、理解を得ている。ご家族からもグループホームであることを十分理解いただいている。	過去3年間対象となる人はありませんが、事業所で最期までみてほしいという希望に添えるよう体制を整えています。重度化においては食事が摂れない、傾眠状態の段階をめやすに話し合いに入るとの方針をもち、年に一度看取りの勉強会も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に二回の避難訓練において、消防署の協力を得て、消防隊員より指導を受けている。また、事故対応マニュアルの周知徹底を定期的に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練にて繰り返し徹底をおこなうとともに年に一度の防災対応の研修を行っている。地域にもご理解をいただき、災害時に応援をしていただく話し合いを行なっている。	年2回昼夜想定避難訓練に加え研修では図上訓練を行っています。管理者は地域防災訓練で応急処置講習を行い運営推進会議において近隣の協力を得られるよう呼びかけています。AEDの設置もあり有事には避難受入れ先として備蓄を増やしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護と個人情報の研修を年に一回行い、接遇マナーについても会議の時間などを利用し理解を図っている。	同じ言動でも信頼関係が構築できているか否かで受け止め方も異なり、自分の身内だったらどうか置き換えて考えようと伝えています。一人で買物に出かけたい利用者の「私はまだ自分でできる」といった意欲を尊重して援助しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新入居の方の介護計画には「積極的に話しかける」というプランが必ず入っておりそのプランが見直しの頃にはスタッフと入居者様の関係が出来上がっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年に決まった行事や月に決まった行事以外は随時の対応をしており無理なお手伝いや行事参加はお願いしていない。入浴などの日課もご本人の希望を最大限に取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くのショッピングセンターやドラッグストアに出かけ洋服をご本人が選び買物物をされたり、好きな化粧品を選んだりされている。選択の難しい方には声をかけてご本人に確認しながら更衣などを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は用意から片付けまでを個々の方の気分に合わせてお手伝いいただいている。日曜日は手作りおやつの日になっており、楽しみながら作っている。	ご飯茶碗と湯飲みは自宅で愛用していたものを継続しています。食後はできる人それぞれが食器を下げ、役割として洗い始める自然な姿があります。誕生日当日には仲良し同士で外食に出かけることが定着しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表には、三食の摂取量、一日の水分摂取量を毎日記入しており1人1人に合った食事量の提供や、適正な水分摂取量に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを励行している。また訪問歯科による専門的口腔ケアや歯磨きのアドバイスを受けている。夜間には義歯をお預かりし、一晩入れ歯洗浄剤にて洗浄を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握に努め、尿意などがわかりずらくなった入居者様にも定期的にトイレ誘導を行ないトイレに座っていただき出来る限りトイレでの排泄を支援しています。	そわそわする、立ち上がるといったサインを見逃さず声をかけています。就寝時、蒸れたりハパンが不快で外してしまう行為には綿パンツへ移行し、ポータブルトイレを利用することで失敗がなくなった人もあります。牛乳や玄米食で便秘予防に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やセンナ茶などを利用し薬を飲む前に出来る限り排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望を最優先に入浴していただいているが週に2回は最低でも入れるように調整している。	湯は一人ひとり入れ替え毎日入りたい人、夜間入りたい人に対応し、週2回以上の入浴としています。浴槽は足を伸ばしてゆったり入れる大きさがあり、身体状況に応じて湯を少なめにしています。リラックスした時間は心も解きほぐれ話が弾んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもご本人様の状態により横になっていただくようにしている。夜間遅くまで起きていらっしゃる方や、寝付けない方などには飲み物や軽食を提供するなどして満足することでの安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品庫には服薬を行なうスタッフが一目でわかるように用量や用法が示してあり、新薬の使用開始時には看護師よりスタッフへの説明を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の役割分担はほとんど決まっております。その方の能力に合わせた役割になっている。昼食時や夕食時にビールを飲む方や居室にてお菓子を食べる方もいらっしゃる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご主人への面会に他施設へ出かけられる人、お一人や入居者様同志でお買い物に出かけられる人、自宅へ線香をあげに帰られる人、図書館へ本を借りに出られる人などその方のご希望に極力沿って外出している。	地域の人に見守られ一人でスーパーまで買い物をする人があります。お弁当持参で全員で公園に出かけたり、季節の花見、浜北万葉の森、森林公園への遠出もあり、家族一緒の一泊旅行を大きな目標としてもっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のご希望のある場合には、ご本人様に一定の金額をおこづかいの中からお渡ししお金のないことで不安を感じられないように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアや事務所の電話は希望により自由に使用することが出来、また、不安を訴えられる場合にはご家族の声を聞いていただき安心していただけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部においては明るさに重点を置いており、照明は全灯つけるようにしている。夜間には足元灯をつけ居室に光が漏れないようにしている。窓の外には季節の花がいつでも見えるよう各階工夫しています。	建物周囲を`散歩道化、し鉢植えや芝生、手作りベンチが彩りを添えます。白を基調とした共用空間は明るく開放的で装飾品を最小限にして家庭の雰囲気を大事にしています。ソリューションウォーターによる衛生管理で利用者も率先して清掃に励んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥には椅子を配置している。リビングソファは勿論、玄関先や芝生にも椅子やテーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は持ち込み自由でその方の生活スタイルに合ったものを持ってきていただいている。状態により安全を考慮し配置転換を行ったり、介護ベットを導入したりしている。	備え付けのエアコンとクローゼットのほかは、個々に自由な持ち込みがみられます。愛着あるレコードプレイヤーで音楽を楽しむ人、座卓で俳句を詠む人、仏壇やぬいぐるみ、姿見といった馴染みのもので安心できる環境にあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには手作りで「使用中」「空き」の札をかけてあり、入居者様ご自身でひっくり返すことでトイレの使用をされる。フロアには急須がいつも置いてあり、自由にお茶を入れて飲むことが出来る。		